横浜市立 横浜市立上山小学校　　令和　4　－　6　年度版　中期学校経営方針

学校教育目標	「ここに学び　ここで遊ぶ　ここがふるさと　上山の子」 めざす子ども像「やってみよう　つなげよう「すき」をふやそう　自分・友だち・上山小」～低学年：楽しむ　中学年：広げる　高学年：高める～ ○自ら課題を発見し、自分の考えをもって学び合い、課題解決を図ることで楽しく学べるようにします。（知） ○自分のよさを知り自信をもつとともに、互いの考え方や生き方を認め合い、支え合うことができるようにします。（徳） ○自他の生命を尊重し、心と体の健康を大切にして、安全に生活する力を高めることができるようにします。（体） ○自然の営みや優れた文化・様々な生き方に触れ、感性が豊かになるようにします。（公） ○地域やより広い世界とかかわり合いながら、共に生きることのすばらしさを実感できるようにします。（開）

学校概要						
	創立　47　周年	学校長　佐藤康晴	副校長　稲冨陽子	2　学期制	一般学級：13	個別支援学級：3
	児童生徒数：　372　人	主な関係校：　中山中学校　・　中山小学校　・　森の台小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
＜主体的に考えようとする態度＞ ＜共生的な考え方・判断＞ ＜課題発見力・共生的な課題解決力＞

中山中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
中山中学校 上山小 中山小学校 森の台小学校	○主体性をもって、課題を解決する子ども ○豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ・教育活動の中に人との豊かな関わりや体験活動を積極的に取り入れる。 ・あいさつ運動や花いっぱい活動、ボランティア清掃など地域行事への参加を位置づけ、地域と関わる子どもを育てていく。 ・授業研究会への参加を他校へも呼びかけ、本校の児童の様子を他校と共有していく。

中期取組目標	めざす子ども像の具現化を図るために「やってみよう　つなげよう「すき」をふやそう　自分・友だち・上山小」をテーマとして ・子どもが互いを尊重し、誰とでも共生できる能力の育成とともに、児童指導・児童理解の充実を図ります。 ・子どもの主体的意識を育て、課題を発見し、解決していく学び方を全教科・教育課程で進めます。 ・生活科や総合的な学習などを通して、地域の「ひと・もの・こと」意識した学習を実践し、地域の良さを知り、地域や社会に貢献できる子どもを育てる。 ・主体的に自己を見つめ、よりよい生き方を求める子どもの育成のため、さまざまな教科や行事での経験や学びの中で得た多様な考え方や感じ方をもとにして、主体的、対話的に考えを深め、相手を理解し、自分の言葉で語ることができる姿を目指します。

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	【主体的・対話的で深い学びを通して、課題発見・課題解決能力を育成します】 ①「できる・わかる」授業を心がけ、学ぶ意欲の向上を目指します。②子どもたちが、「なぜだろう」「知りたいな」という課題発見の力の育成、また、その疑問を、学び合いの中で自ら追究していこうとする課題解決の力の育成を目指します。
担当	研究部	
徳	豊かな心	【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校つくります】①教科学習、豊かな体験活動、教育活動から生き方・考え方・とらえ方を見つめなおし自ら正しい判断ができる主体性をもった子どもを育てます。②たてわり活動や異学年交流、地域とのかかわり合いを通して、信頼関係を構築できる力を育みます。③なかよし委員会が中心となり、全校集会、全校遠足、たてわり活動を行います。
担当	児童安全部	
体	健やかやな体	【健康的生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上と健康な心の育成ために、長縄と自由外遊びを継続的に取り組みます。②年2回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、健康的生活習慣の日常化に取り組みます。
担当	体育部	
公開	地域連携	【地域の一員としての子どもを育てます】①系統性をもって、計画的に学年ごと地域行事に参加します。②地域の人と関わり触れ合う中で、同じ地域で共に生きる喜びを感じたり、つながりを大事にしたりできるようにしていきます。
担当	運営部	
いじめへの対応		【いじめを早期発見し、大きくしないよう迅速に組織的に対応します】積極的認知を心がけ、職員のいじめに対しての感度を高めていきます。児童アンケート・教育相談を計画的に行い、児童一人ひとりの不安や悩みにに寄り添い適切な支援に当たります。対応は、チームで行い、いじめ防止対策委員会を毎月開催し、児童情報の共有を日常的に行うことで、複数の目で児童を見守ります。未然防止として、何でも言える、安心できる教室の雰囲気づくりを行っていきます。
担当	児童安全部	
人材育成・組織運営(働き方)		【教職員が誇りをもって働き、効率的で温かく支え合うチーム作りを推進し、人材育成・組織運営・働き方改革を進めます】3部会制から効率的な学校運営・事務分掌推進を行い、働き方改革につなげます。効率的な会議、無理無駄を省き、授業準備・児童対応に当たる時間を確保します。健康的で働きやすい職場環境づくりをめざし、支え合いや目的意識をもった優先順位がもちやすい学校としての目標を掲げます。
担当	運営部	
児童理解		【家庭・地域と連携を図りながら、児童理解を推進します】①3ブロック制から、ブロック内で児童情報を常に共有し、チームで児童理解・児童指導・保護者対応にあたります。②学級、学校の課題を客観的に捉え、保護者・地域と常に児童の実態把握を行うことで、課題の未然防止に努めます。
担当	児童安全部	
特別支援教育		【児童一人ひとりの実態に合った特別支援体制を整えます】①児童指導部や職員会議等で共有された児童情報を全職員で共有し、一般級と個別支援級との効果的な教育的連携の充実を図ります。②個に合わせた支援を行うため、必要に応じて専門機関等と連携し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し支援や指導を行います。③特別支援教育コーディネーターを中心に、校内研修を行い、一般級における特別支援教育の推進に努めます。
担当	児童安全部	
安全管理・安全教育		【子どもが自ら考えて避難できるよう指導を積み重ねるとともに、安全管理体制を整えます】実施後には振り返りを活かしたPDCAサイクルの避難訓練を意識します。他機関とも連携し、教員の災害時の動きをマニュアル化します。そのマニュアルをアップデートさせることで、教職員の安全管理体制を充実させます。
担当	児童安全部	
自尊感情を育む		【子どもの自尊感情を育むため共通体験・感情共有の機会を大切にします】 日常の授業から、共通体験、感情共有の機会を大切にし、互いの感じ方・考え方を共有することで自尊感情を意識的に高めていきます。めざす子ども像の「やってみよう（主体性）」を育て、自信につなげていきます。
担当	研究部	